

## 熊本 S.J.C.D. 例会 抄録

演 題 「インプラントによる咬合再構成症例

～チームアプローチの重要性を考える～

演 者 佐藤 俊一郎 (DR) 津田 佳輝 (DT) 井 琴絵 (DH)

日 付 2006年10月24日

Key words 1.診断用 WaxUp  
2.CRの模索  
3.プライマリープロビジョナルレストレーション  
4.セカンダリープロビジョナルレストレーション  
5.チームアプローチ

### 抄 録

自分では完璧のつもりで終えた症例でも、後で見直してみると、「こうしておけば良かった」「ここが気に入らない」という点がたくさん出てきます。(特に、自分の場合はそれが多くて反省することばかりです。)自分の眼は2つしかなく、どうしても偏った見方をしてしまうのだと思います。ここに、審美と機能回復を担当する技工士、炎症と生活習慣を管理していく衛生士、そして何より患者自身の眼を加えることにより、様々な改善点が発見できます。それを可能にするのが、診断用 WaxUp・CRの模索・プロビジョナル

レストレーションという流れだと思われます。これを、患者を含めたみんなが詰めていくことが、後悔の少ない症例(もちろん患者自信も満足できる症例)へつながると考えます。

今回、テンポラリーから、プライマリープロビジョナル、セカンダリープロビジョナルという流れに沿いながら、みんなで試行錯誤し、現在ファイナルプロビジョナルレストレーションまでたどり着いた症例を見ていただき、ご意見・ご指導をいただきたいと思ひます。